

『放射線室の新しい検査機器を紹介します』

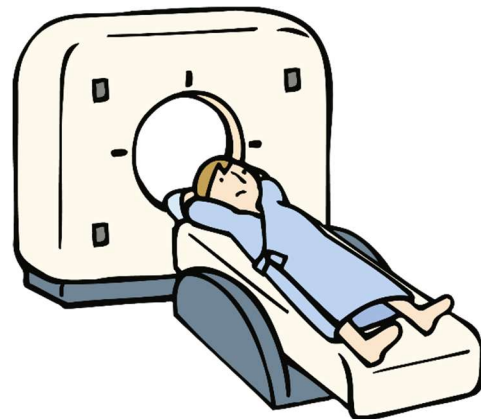
放射線室では、令和4年度にフラットパネル搭載の透視装置導入をはじめ、令和5年度には CT 装置、CT 用造影剤自動注入装置、マンモグラフィ撮影装置を新たに導入いたしました。

CT 装置はいま話題の AI 技術と高速スキャンにより、高画質と低被ばくを兼ね備えた装置です。多列・高速(0.35 秒/1 回転)スキャン装置の導入により、新たに心臓血管の CT 検査が可能となり、その検査数も着実に増えております。

高速撮影により呼吸を止める時間が短縮し、大きな撮影台や広い開口径により、検査の負担が軽減されました。また画像処理ソフトの向上により、大幅に被ばく量をカットした撮影で、高精細画像が得られます。

新たに導入された透視装置や、マンモグラフィ装置はフラットパネルを搭載し、こちらも高精細画像と低被ばくを高いレベルで実現しています。

マンモグラフィ装置は圧迫機構も改良され、検査を受ける方の負担軽減に少しでも寄与すればと考えます。



早いもので、足立区で最初の 3.0 テスラ MRI を導入から 10 年余りが経ちました。最新・最強磁場の MRI 装置にくわえ、今季は最新の CT 装置が導入され、他院からの検査依頼も更に増加しております。

今後も連携医療機関をはじめ、多くの医療機関に利用いただければと考えます。

このたびの感染症流行により、放射線室ではこれまで以上に、機器や撮影室・撮影器具の衛生管理に注意しております。みなさんに安心して検査を受けていただくよう、今後も放射線室では継続した感染対策と、適正・快適な検査環境の提供に取り組んでまいります。画像を通して医師と協力し、みなさんの健康をお守りできるよう、これからも「基本に忠実に」を理念に努めてまいります。検査の際に不安などあれば、スタッフに気軽にお声かけください。



検査に対するみなさんの不安が少しでも和らぐと幸いです。今回は新しい検査機器のお知らせでした。

『障害者スポーツについて思うこと』

リハビリテーション科 濱田万弓



2021年に開催された東京2020パラリンピックの記憶が残る中、2024年8月28日～9月8日パリ2024パラリンピックが開催されますが、パラリンピックの始まりはいつなのでしょう
か？パラリンピックは1943年英国ストックマンデビル病院
ルードウィッヒグッドマン医師が車椅子脊損患者に対するリ
ハビリテーション治療の一環としてスポーツを取り入れ、患者
の社会復帰に貢献した事が始まりです。1960年ローマオリン
ピック競技会直後に開催された大会が第1回パラリンピックと認定され、語源はパラ=Parallel（もう一つ
の）+Olympic（オリンピック）とされています。

日本においては日本パラリンピックの父と称される大分中村病院整形外科医の中村裕（なかむらゆたか）
先生のご尽力により、1964年東京パラリンピック（第2回パラリンピック）が開催されました。当時は日
常用車椅子や日常用義足で競技する選手が一般的でしたが、現在は競技力の向上と共に、レーサーと呼ばれ
るスポーツ用車椅子や疾走用義足といったスポーツに特化した板バネ義足が使用されるようになり、リハビ
リテーションの枠組みからアスリート競技へと発展しました。

私は10年前より日本パラ陸上競技連盟のスタッフとして活動しておりますが、障害や病気がある中でも
工夫や努力が技術と融合し選手のパフォーマンスが生み出される過程に、限りない可能性を感じ続けていま
す。

障害者スポーツの祭典として聾者のためのデフリンピック、知的障害者のためのスペシャルオリンピック
スがある事も忘れてはなりません。障害があっても個人に合ったスポーツ様式があります。スポーツが苦手
という方には運動をお勧めします。ウォーキングやラジオ体操ほか、まずは体を動かす事から始めてみてはいかがでしょうか？健康寿命と運動、
スポーツに正の相関性がある事は示されており、皆様に合った取り組み
が見つかる事を心より願っております。疾患に応じて運動制限を要する
方は、主治医へ是非ご相談下さい。



『いまさら聞けない！？ウイルスと予防接種のお話』

近年、テレビCMや新聞、雑誌などでワクチンや予防接種に関する報道が多く取り上げられています。コロナ感染症に対し、ワクチンによる予防接種が広く行われていることから、ワクチンがより身近になってきていると思います。しかし、ワクチンといっても、様々な種類があり、対象とする疾患や対象となる患者に特徴があります。

そこで今回のコラムでは、予防接種やワクチンの働きについてお話しさせていただきます。

そもそもワクチンとは何でしょうか？

ワクチンとは「病原菌から精製した抗原」の総称です。この一文ではイメージがつきにくいですが、わかりやすく言うと「感染のリスクの無い（限りなく低い）原因菌」となります。

一般的に用いられるインフルエンザワクチンは<不活化ワクチン>といわれ、活性の無い（死滅した）インフルエンザウイルスを用います。そのワクチンを体内へ投与することで、体がインフルエンザウイルスを覚え、次に体に侵入してきた際に攻撃し、体外へ排除しようとし（これを獲得免疫といいます）。このようにインフルエンザウイルスが体内に入っても感染しない、もしくは軽症でおさまります。



多くの医薬品があり、治療可能な病気も増えていますが、基本はそもそも病気にならない「予防」が重要です。バランスの良い食事、十分な睡眠、適度な運動に加えて「予防接種」も考えてみてはいかがでしょうか。現在、国内では様々なワクチンが予防接種として用いられています。国からの補助があるものも多くありますので是非ご検討ください。

	対象疾患	対象者	国の補助
肺炎球菌ワクチン	気管支炎、肺炎、敗血症など	5歳未満 65歳以上 (定期接種)	あり (5歳未満、65歳～100歳)
带状疱疹ワクチン	水痘、带状疱疹	50歳以上	一部あり (自治体による)
インフルエンザワクチン	季節性インフルエンザ	生後6か月以上	なし (生活保護の方などは除く)
新型コロナワクチン	新型コロナ感染症	生後6か月以上	あり (2023年度まで)

主な予防接種の一覧
(公費負担の詳細についてはお住いの市区町村にお問い合わせください)

『自分らしく自宅で過ごせる訪問看護について』

いずみ訪問看護ステーション本木 所長 松井 宏恵

訪問看護サービス

日常生活の看護

- ・全身状態の観察（血圧・体温・呼吸・脈拍測定）
- ・排泄のケア（浣腸・トイレ介助など）
- ・療養環境や食事等のアドバイスなど

終末期の看護

- ・痛みコントロール
- ・本人とご家族への精神的支援
- ・看取りの体制への相談、アドバイスなど

介護相談やアドバイス

- ・介護の不安やストレス等の相談
- ・介護をする方の健康相談など

治療促進のための看護

- ・内服薬の管理・指導
- ・尿を出す管の管理や交換
- ・床ずれや傷の処置や予防
- ・医療機器や器具をしようしている方のケア
(在宅酸素の方、人工呼吸器、気管切開をしてある方、人工肛門や人工膀胱の方など)

精神・心理的な看護

- ・リラックスの為のケアなど

困ったな？

- 病気があり、生活への不安がある
- 健康について心配な方
- 家での介護に不安のある方
- 退院して自宅で療養を始めるが病状など心配な方など

地域の包括支援センターやかかり医の相談室、

当訪問看護ステーションへご相談下さい。

いずみ訪問看護ステーションは、いずみ記念病院と同一敷地内にあります。

24時間緊急体制で対応しており、病院との連携や対応もスムーズでチームワークの良さがあります。

地域にお住まいの皆様に必要な訪問看護サービスができるように、看護師一同研修に参加し看護を提供いたします。訪問看護についてのご質問やお問い合わせ等がありましたら、お気軽にご相談ください。



いずみ記念病院	: 03-5888-2111	足立区本木 1-3-7
いずみ通所リハビリテーション本木	: 03-5888-2128	足立区本木 1-3-7
いずみ訪問看護ステーション本木	: 03-5888-2121	足立区本木 1-3-7
(訪問リハビリテーション)	: 03-5888-2125	
いずみ居宅介護支援	: 03-5888-2124	足立区本木 1-3-7
いずみ訪問介護	: 03-5888-2126	足立区本木 1-3-7
医療介護相談室	: 03-5888-2113	足立区本木 1-3-7
介護老人保健施設いずみ	: 03-5838-2277	足立区西新井 5-35-2

詳しくは、次のホームページをご覧ください。 <http://www.izumikinen.or.jp>